

## 資料 2

### ひとり親家庭への支援に関するニーズ調査の結果

#### (1) 調査の概要

期 間	令和元年 8 月～9 月
調 査 方 法	児童扶養手当の現況届出時に調査票を母子家庭及び父子家庭毎に無作為に配布し、後日郵送での提出を依頼
配 布 数	2,000 部 (母子家庭=1,800 部 父子家庭=200 部)
配 布 範 囲	政令指定都市 (千葉市)、中核市 (船橋市、柏市) を除く県内市町村
有効回答数	598 件 (母子家庭= 550 件 父子家庭= 48 件)

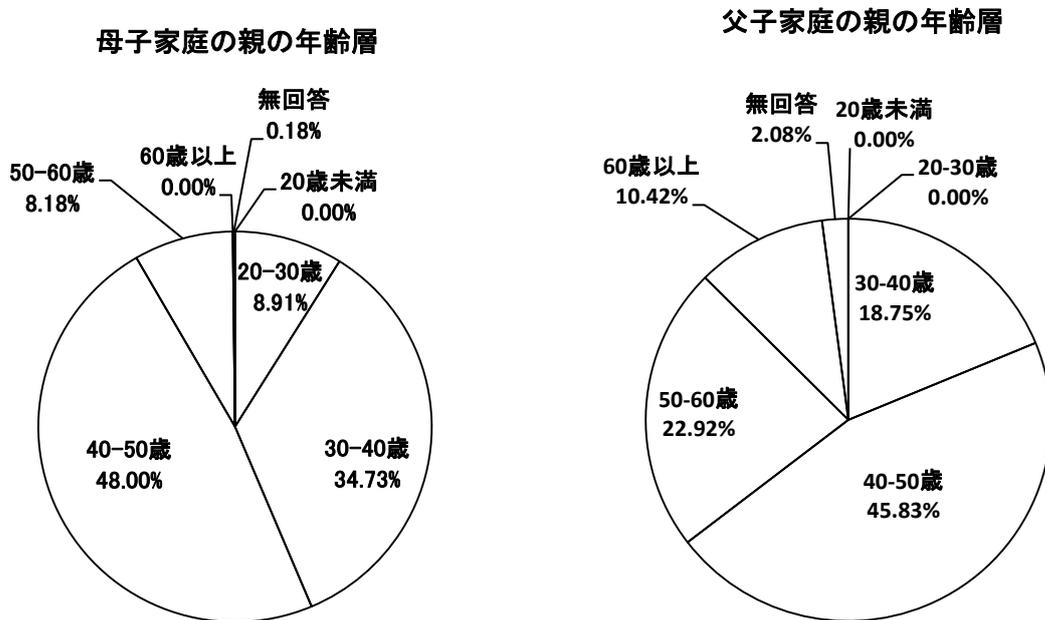
#### (2) 調査結果

問 1 及び問 2 は、基礎項目調査 (お住まいの市町村、母子家庭・父子家庭の区分) のため、省略しています。

---

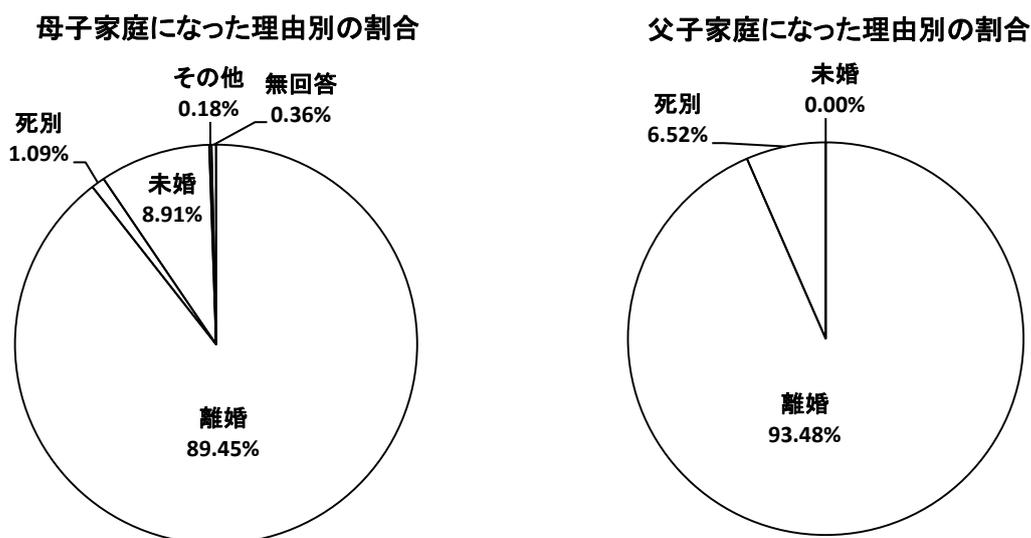
問 3 あなたの令和元年 8 月 1 日現在の年齢をお答えください。(n=550) (n=48)

---



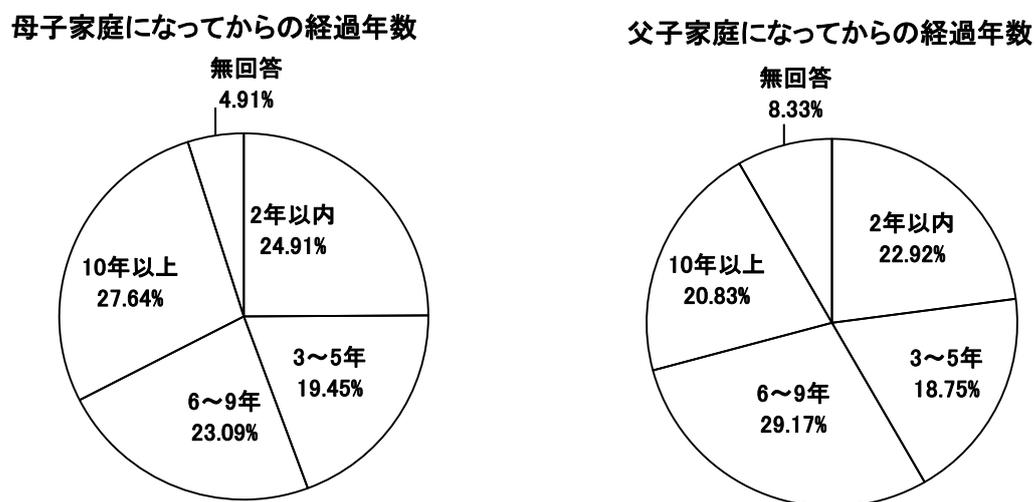
母子家庭の母、父子家庭の父とも 40～50 歳代の年齢層が一番多くなっています。

問4 ひとり親になった理由は何ですか。(n=550) (n=48)



ひとり親になった理由としては、母子家庭、父子家庭とも離婚が圧倒的に高くなっており、次に高いのが、母子家庭では未婚、父子家庭では死別となっています。

問5 ひとり親になったのはいつですか。離婚の方は離婚の日、死別の方は相手の方が亡くなった日、未婚の方は初めのお子さんが生まれた日をもってお答えください。(n=550) (n=48)

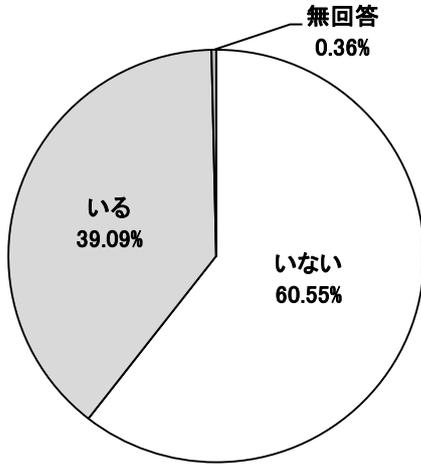


令和元年8月1日時点での経過年数を「2年以内」「3～5年」「6～9年」「10年以上」の期間ごとに集計した結果、母子家庭、父子家庭ともに4つの区分に大きな割合の違いはなく、比較的均等となっています。

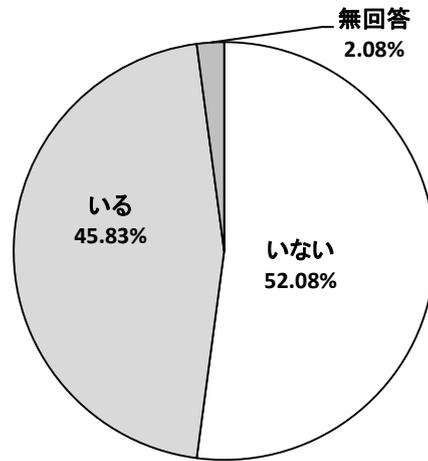
※ニーズ調査では、「年月」までの回答を求めていたため、月の初日がひとり親になった日と仮定して集計しています。また、ひとり親になった離婚「年」までの回答で「月」が無回答であった場合は、その年の7月1日がひとり親になった日と仮定して集計しています。

問6 お子さん以外で現在同居している方はいますか。(複数回答可) (n=550) (n=48)

母子世帯における他の世帯員の有無

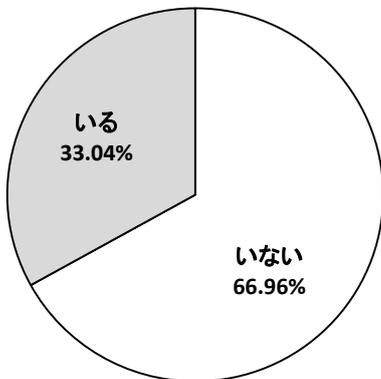


父子世帯における他の世帯員の有無



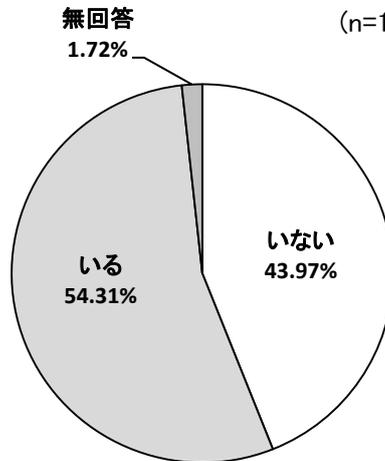
ひとり親家庭における他の世帯員の有無  
(東葛地域)

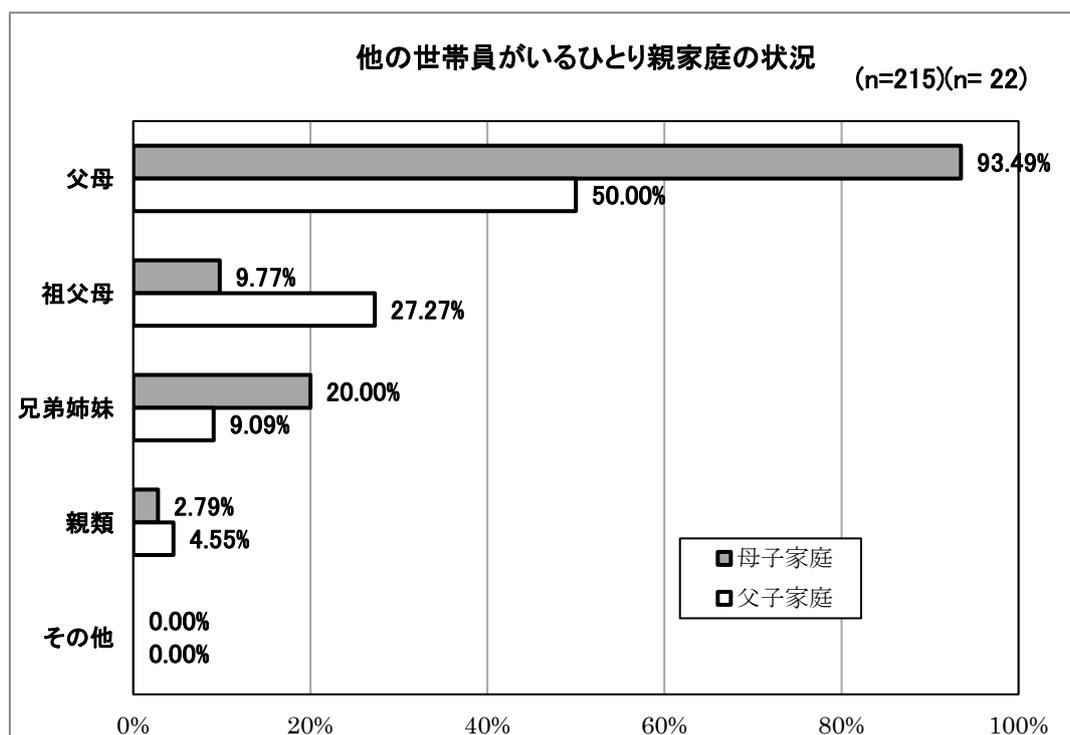
(n=230)



ひとり親家庭における他の世帯の有無  
(香取・海匠・安房地区)

(n=116)





親子以外の世帯員と同居している割合は、母子家庭では 39.09%、父子家庭では 45.83% となっています。

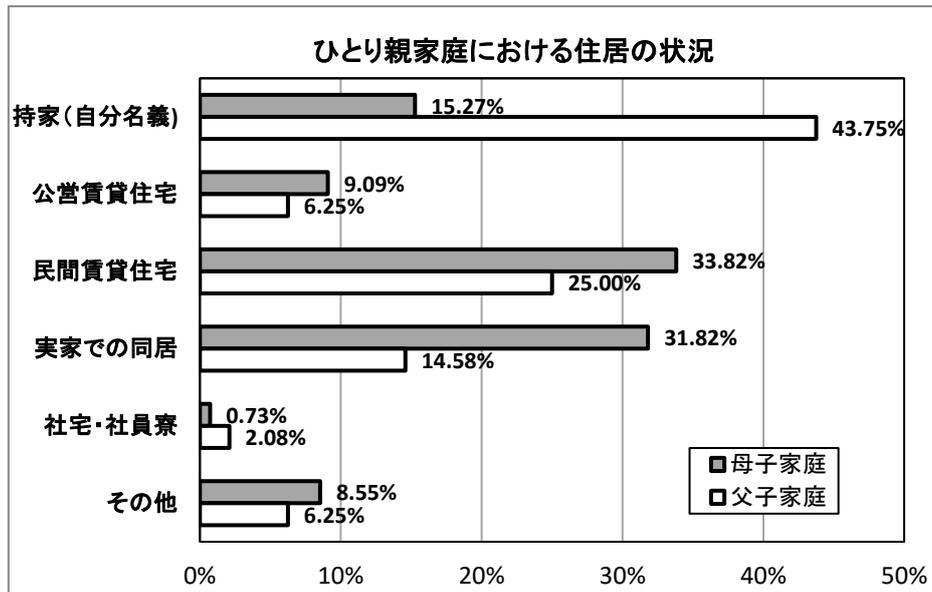
また、都市部である東葛地域と、地方の香取・海匝・安房郡市とを比較してみると、東葛地域で他の世帯員と同居していない割合が同居している世帯を上回っているのに対し、香取・海匝・安房地域ではその逆に、同居している世帯の方が高くなっています。

同居している世帯員で圧倒的に多いのは父母（子どもにとっての祖父母）で、実家住まいが多いものと思われます。

一般的に経済的困窮度が母子家庭よりも低い父子家庭の方が、他世帯員との同居の割合が高くなっています。

※香取・海匝・安房郡市を地方として集計対象としています。

問7 現在の住居の状況についてお答えください。(n=550) (n=48)



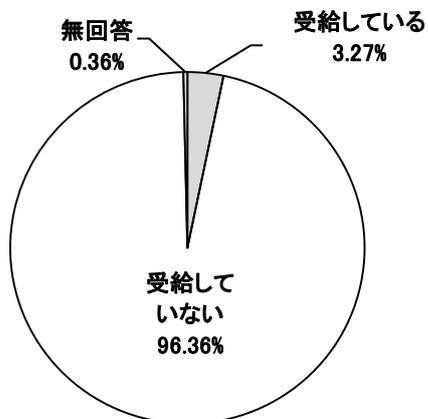
母子家庭では、公営・民間合わせた賃貸住宅に住んでいる世帯の割合が 42.91%と一番高く、その次に実家での同居が 31.82%で高くなっています。

父子家庭では、持家に住んでいる世帯の割合が 43.75%で一番高くなっています。

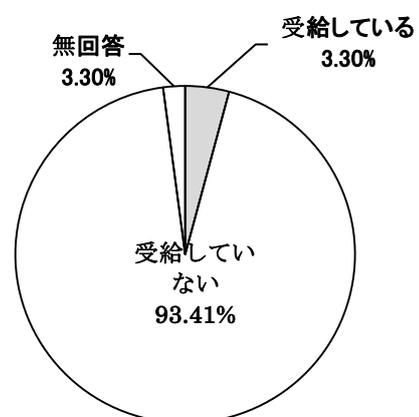
「その他」の内容としては主に、親をはじめとする親類名義や、元夫名義の持家で居住している方が該当します。

問8-(1) 生活保護の受給状況についてお答えください。(n=550) (n=48)

**母子家庭における生活保護の受給状況**



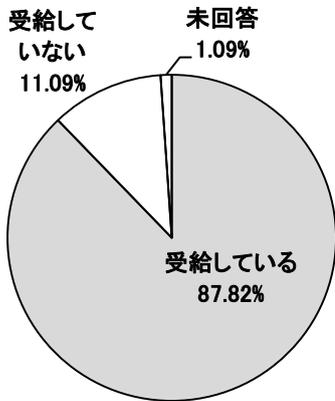
**父子家庭における生活保護の受給状況**



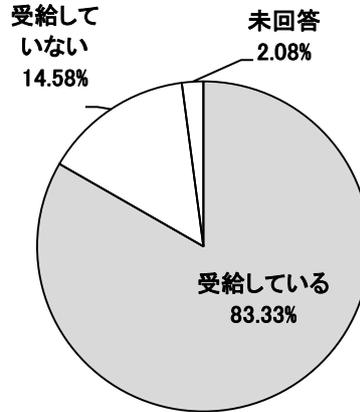
受給者の割合は母子家庭 3.27%、父子家庭 3.30%にとどまっています。

問8-(2) 児童扶養手当の受給状況についてお答えください。(n=550) (n=48)

母子家庭における児童扶養手当の受給状況



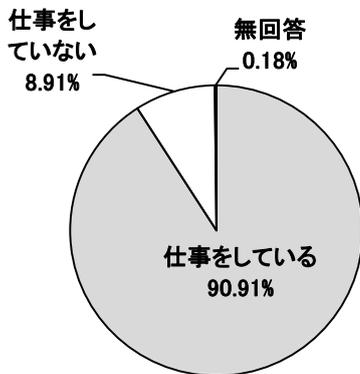
父子家庭における児童扶養手当の受給状況



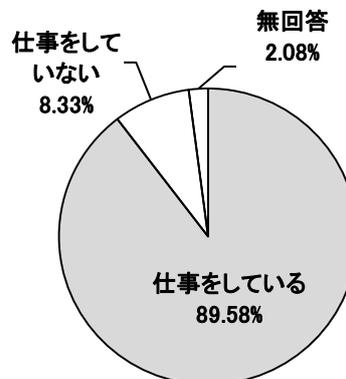
児童扶養手当の受給割合は、母子家庭 87.82%、父子家庭 83.33%と高い割合になっています。

問9-(1) 現在、お仕事をされているかどうかについてお答えください。また、お仕事をされている方は、いくつのお仕事をされているかその数もお答えください。(n=550) (n=48)

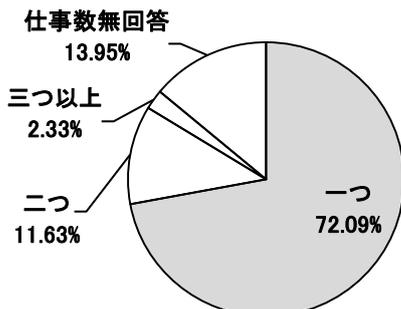
母子家庭の親の就業状況



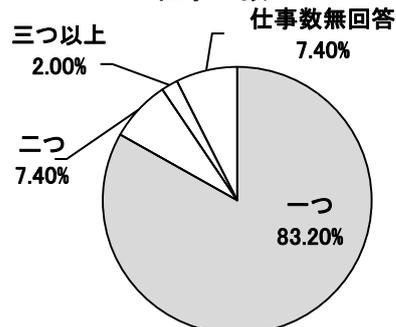
父子家庭の親の就業状況



就業している父子家庭の親の仕事の数



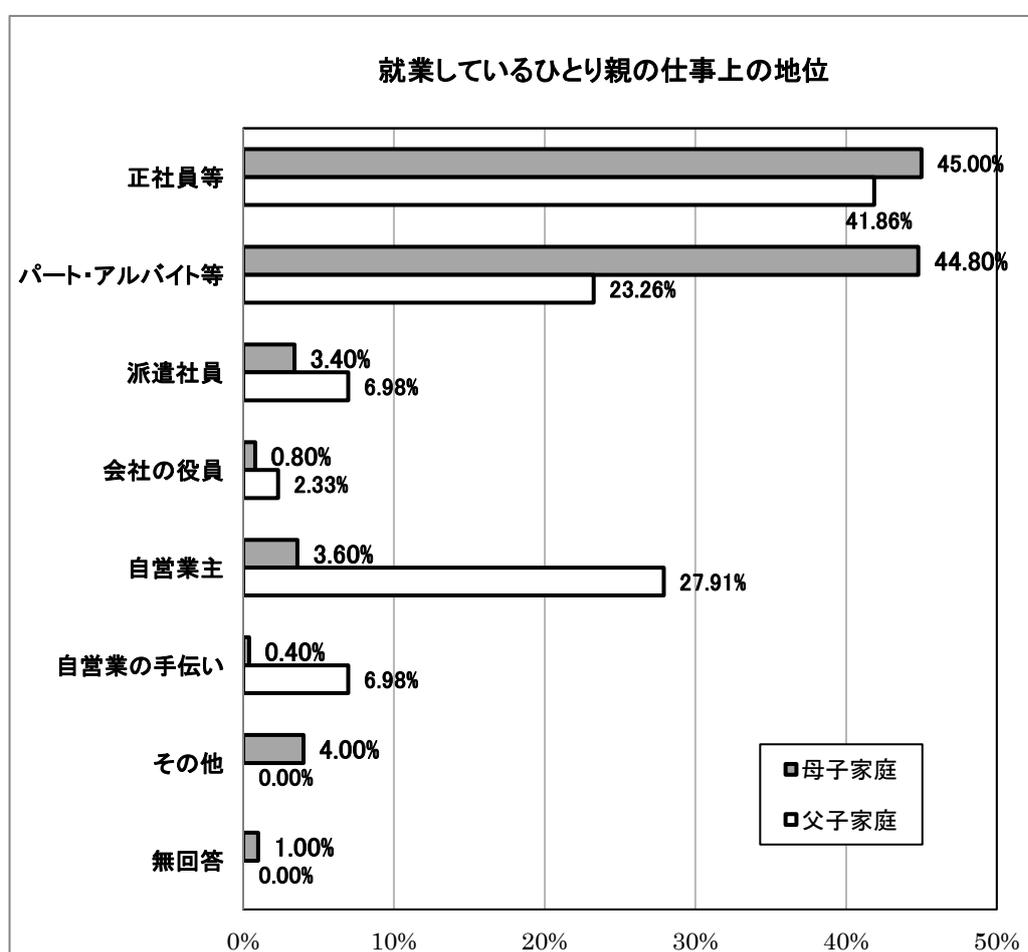
就業している母子家庭の親の仕事の数



母子家庭の 90.91%、父子家庭の 89.58%は仕事をしており、いずれも就業率は高くなっています。仕事を複数行っている方は、母子家庭の母で 13.96% 父子家庭の父で 9.4%となっています。

母子家庭の母の方が複数の仕事をする方の割合が高いのは、次の問9-(2)の結果にもあるように、一般的に労働単価が低く労働時間が短いパート・アルバイト等の非正規雇用の人の割合が高いため、生計を維持するための必要性からと思われます。

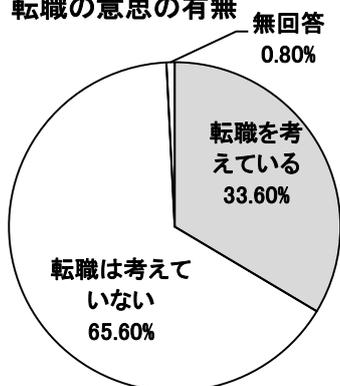
問9-(2) 問9-(1) で「仕事をしている」と答えた方にお聞きします。現在の仕事上の地位は次のうちどれですか。(複数のお仕事をされている方でそれぞれの職で地位が異なる方は、当てはまるもの全てを選択してください。) (n=500) (n=43)



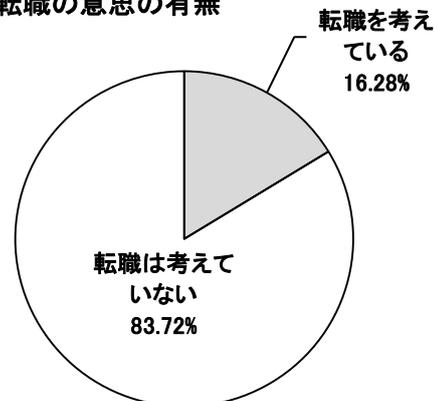
母子家庭の母は、パート・アルバイト等の割合が父子家庭の父よりも高く、父子家庭の父は、自営業主である割合が母子家庭の母より高くなっています。

問9-(3) 問9-(1) で「仕事をしている」と答えた方にお聞きます。現在転職を考えていますか。(n=500) (n=43)

就業している母子家庭の母の  
転職の意思の有無

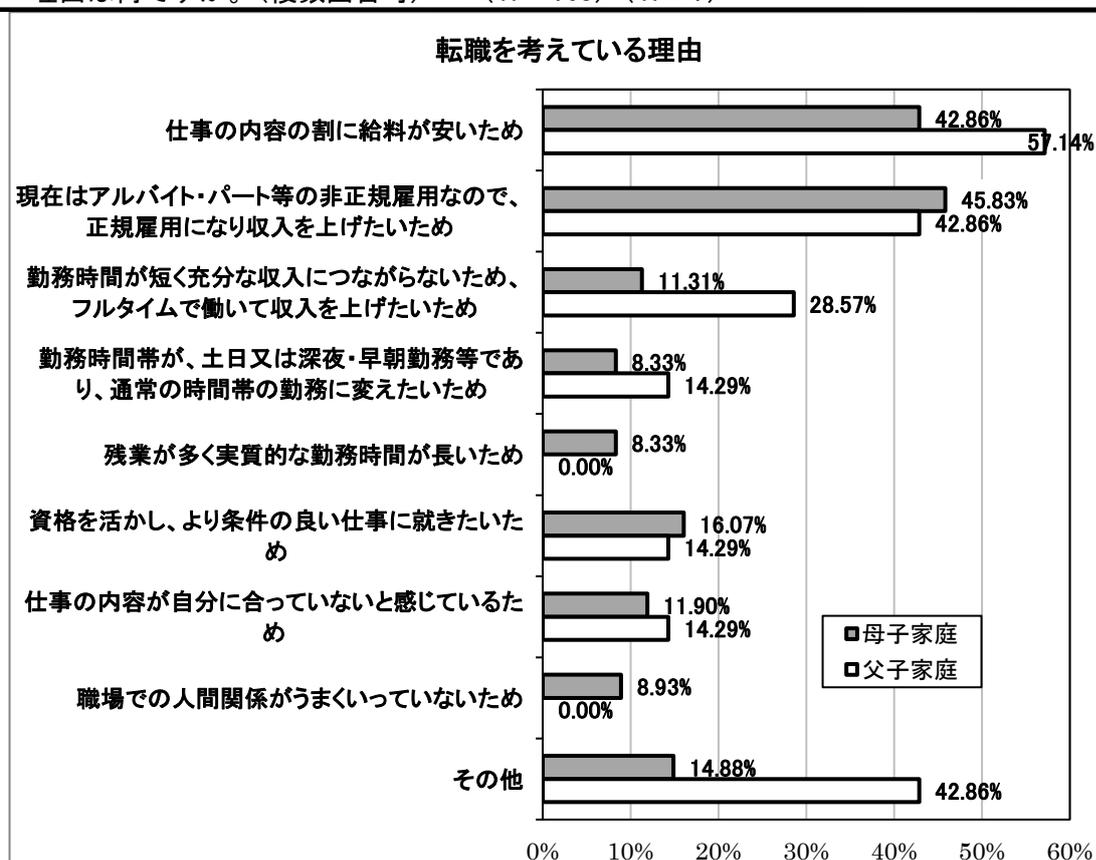


就業している父子家庭の父の  
転職の意思の有無



母子家庭の母、父子家庭の父とも「転職は考えていない」の割合が「転職を考えている」を上回っていますが、「転職を考えている」割合だけで見ると、母子世帯の母は父子世帯の父よりの約2倍となっています。

問9-(4) 問9-(3) で「転職を考えている」と答えた方にお聞きます。現在転職を考えている理由は何ですか。(複数回答可) (n=168) (n=7)



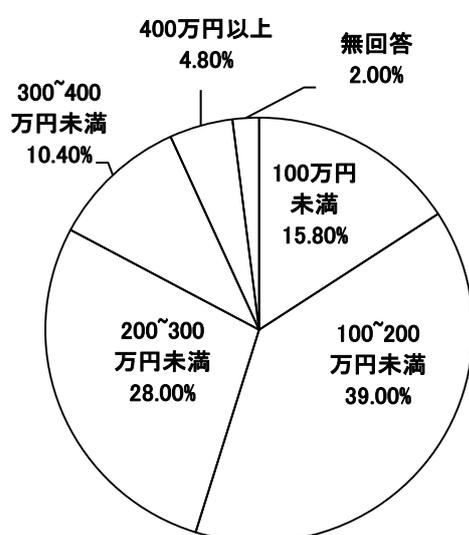
転職を考えている理由としては、収入アップをあげる方の割合が、母子家庭の母、父子家庭の父とも高くなっています。

---

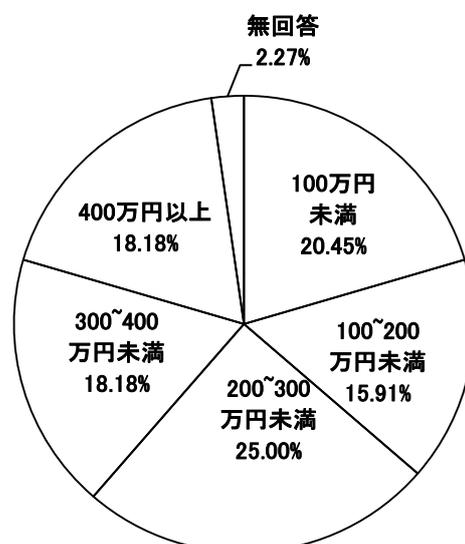
問 10 問 9-(1) で「仕事をしている」と答えた方にお聞きします。昨年1年間で、あなたがお仕事によって得た収入はいくらですか。(児童扶養手当等の給付された金額は除き、税金等の控除前の金額でお答えください) (n=500) (n=44)

---

母子家庭の親の就労収入状況

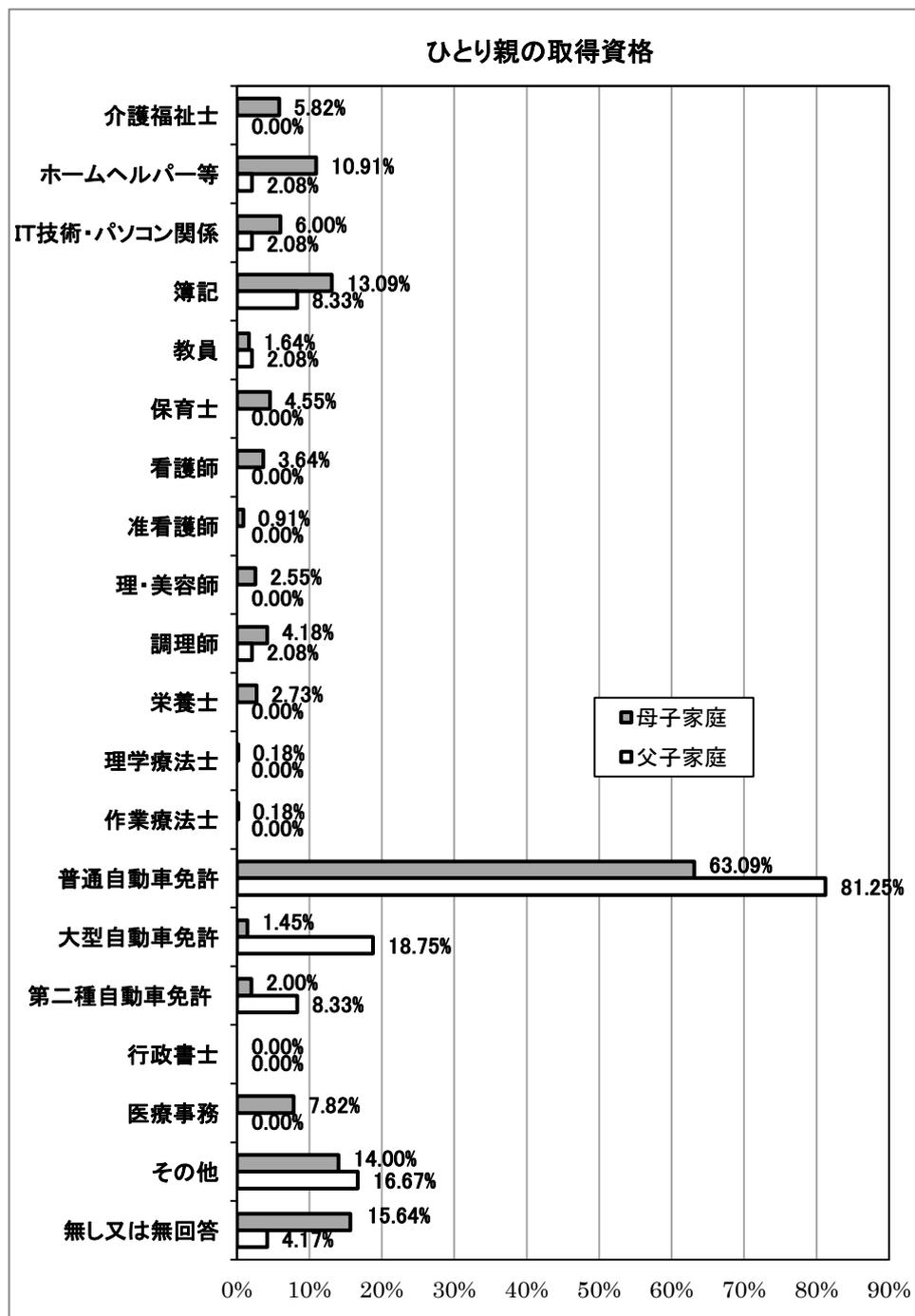


父子家庭の親の就労収入状況



母子家庭の母で一番多い就労収入は、「100~200万円未満」の層であり、父子家庭では「200~300万円未満」の層であることや、400万円以上の比較的高い収入を得ている割合が父子家庭の父の方が多ことから、母子家庭の母の就労収入は父子家庭の父に比べて低いことがこのニーズ調査の結果にも現れています。

問 11-(1) あなたが取得している資格は何ですか。(複数回答可) (n=550) (n=48)

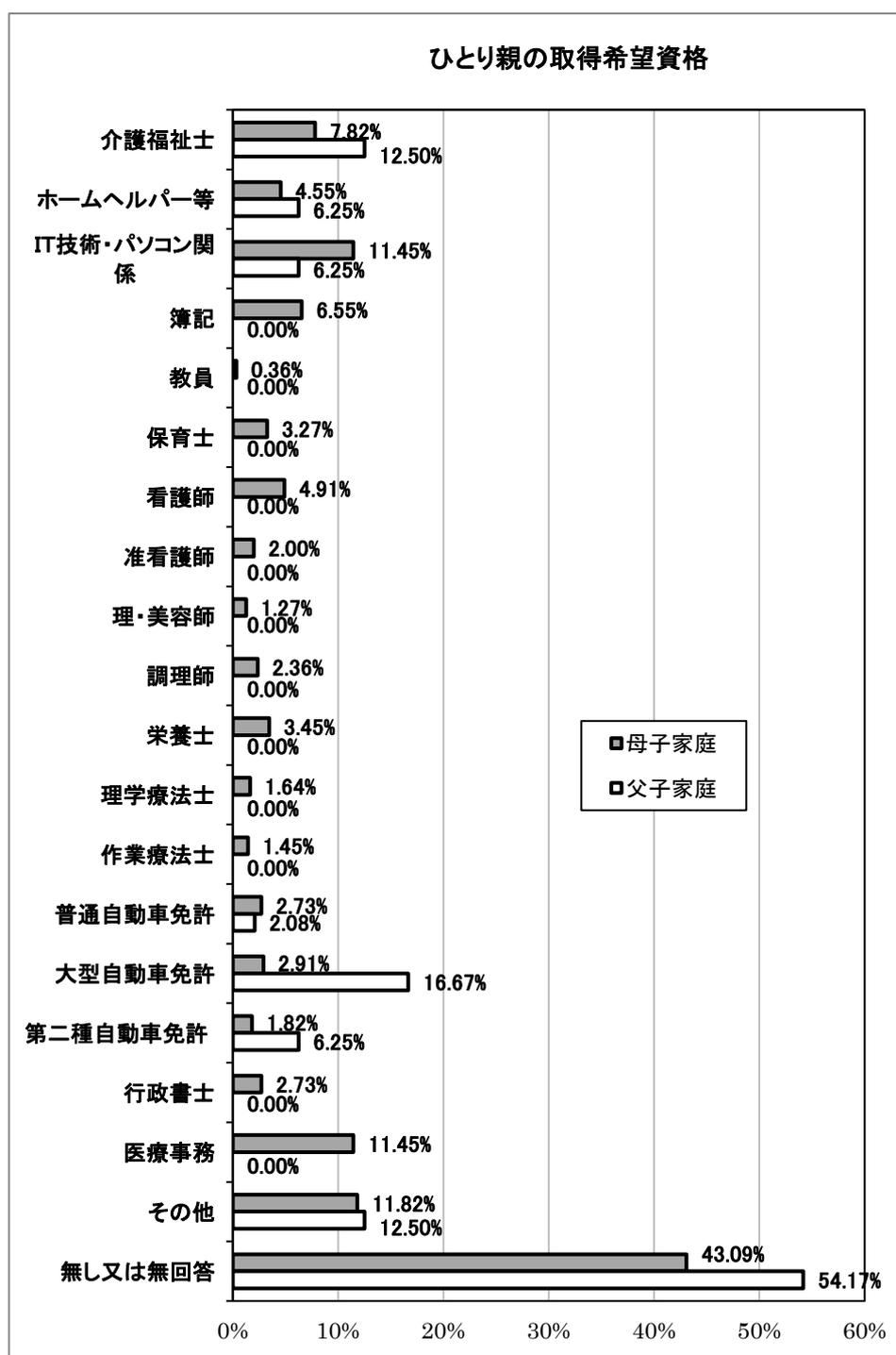


取得している資格の割合は、母子家庭の母、父子家庭の父とも普通自動車免許が圧倒的に高くなっています。

また、母子家庭の母は介護福祉士やホームヘルパー等の介護関係の資格や、IT技術関係や簿記の資格を持っている方も一定割合います。

父子家庭の父は、大型自動車免許、第二種自動車免許を持っている方の割合が高くなっています。

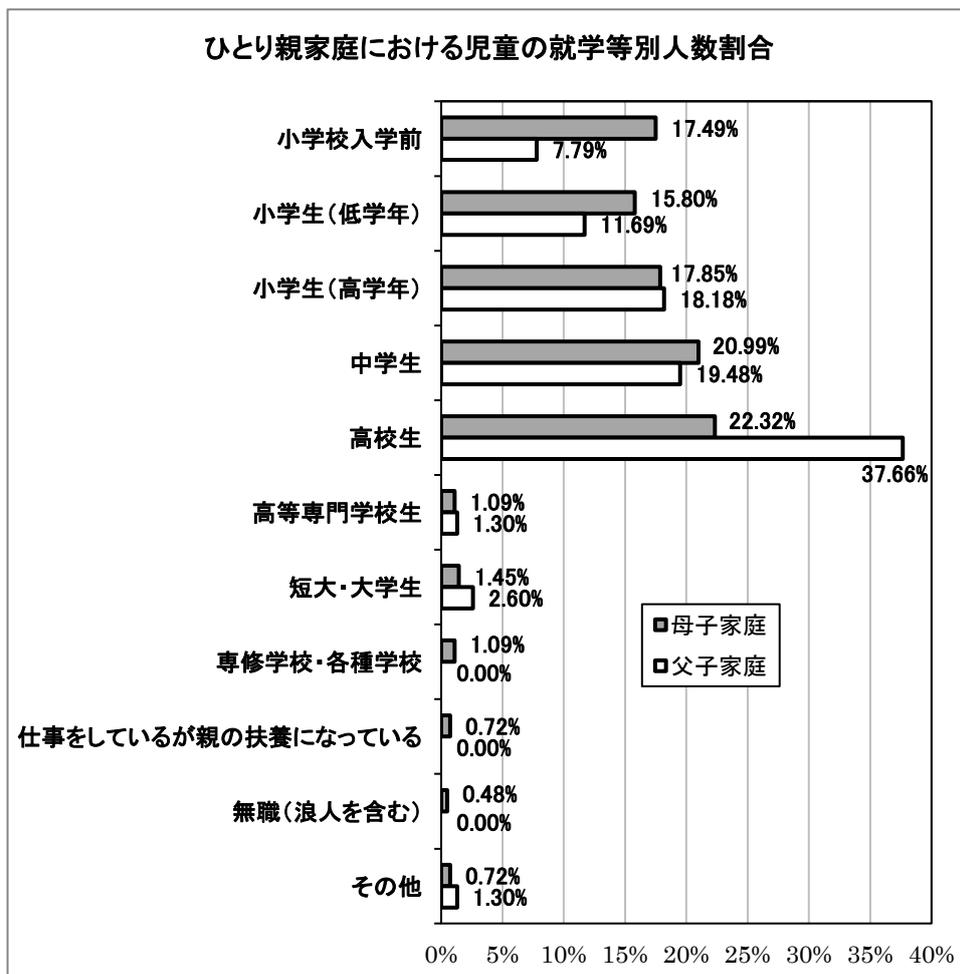
問 11-(2) あなたが、今後取得したい資格は何ですか。(複数回答可) (n=550) (n=48)



今度取得したい資格の割合として、介護福祉士等の介護関係やIT技術関係が、母子家庭の母、父子家庭の父ともに割合は高くなっています。また、母子家庭の母では医療事務が、父子家庭の父では大型自動車免許及び第二種自動車免許の割合が高くなっています。

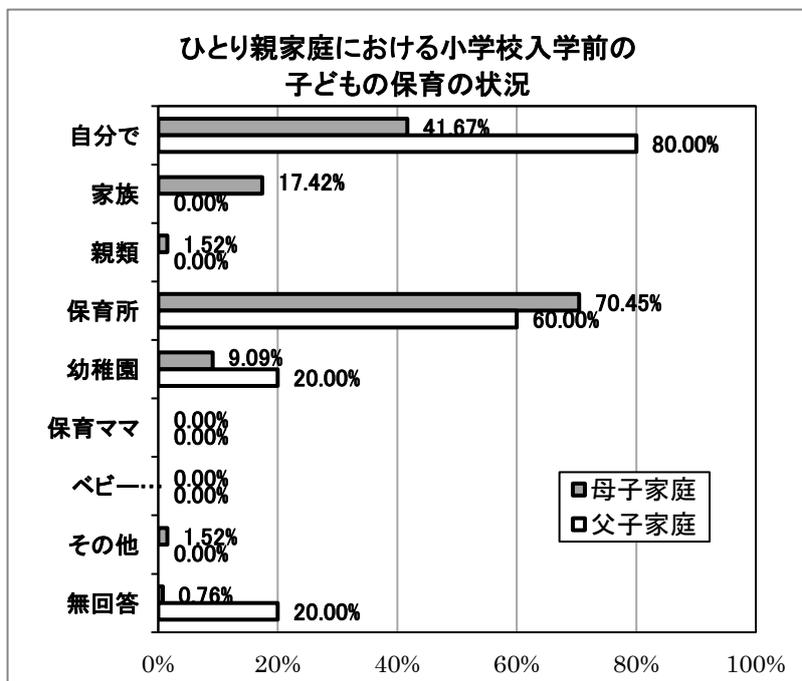
ただし、今後取得したい資格が無い(又は無回答)の方が、母子家庭の母及び父子家庭の父ともに一番多くなっています。

問 12 お子さんのうち 20 歳未満の児童であなたが扶養をしているお子さんは何人いますか。そのお子さんの就学等別にお答えください。(n=829) (n=77)



父子家庭では、高校生の子どもの人数割合が母子家庭と比較して高く、母子家庭では、小学校入学前の子どもの人数割合が父子家庭と比較して高くなっています。

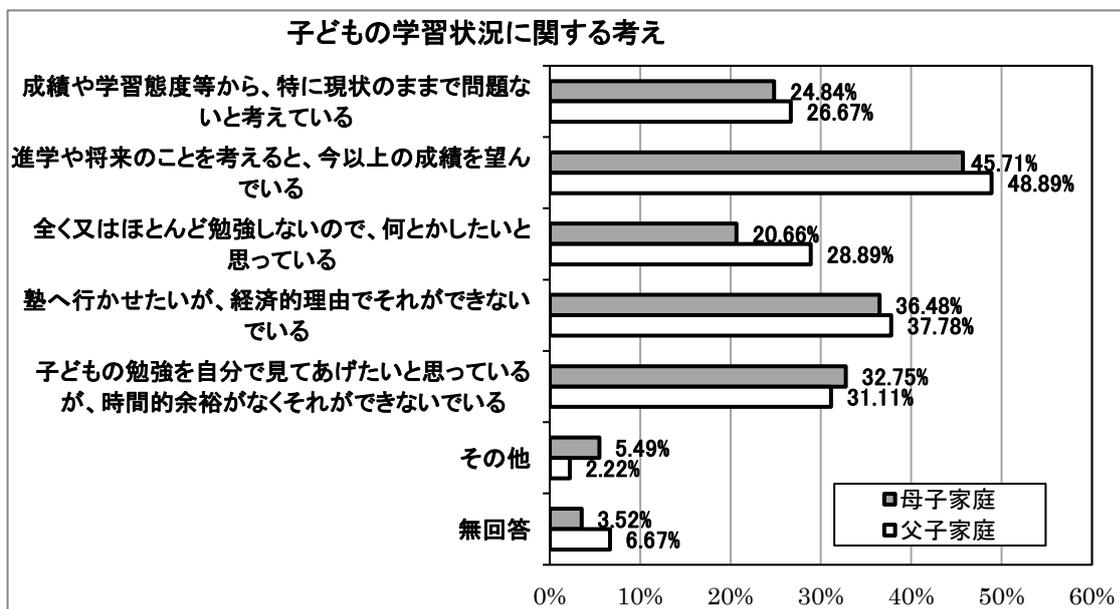
問 13 小学校入学前のお子さんがある方にお聞きします。普段保育は誰（どちら）が行っていますか。（複数回答可）（n=132）（n=5）



多くのひとり親が、保育所を利用しながら、自分でも保育していることが分かります。

※この設問は複数回答可となっていますので、例えば自分で保育を行っている方が全て、保育所に入れていないということではありません。

問 14 小学生から高校生までのお子さんがいる方にお聞きします。お子さんの学習関係についてどのようにお考えですか。(複数回答可) (n=455) (n=45)

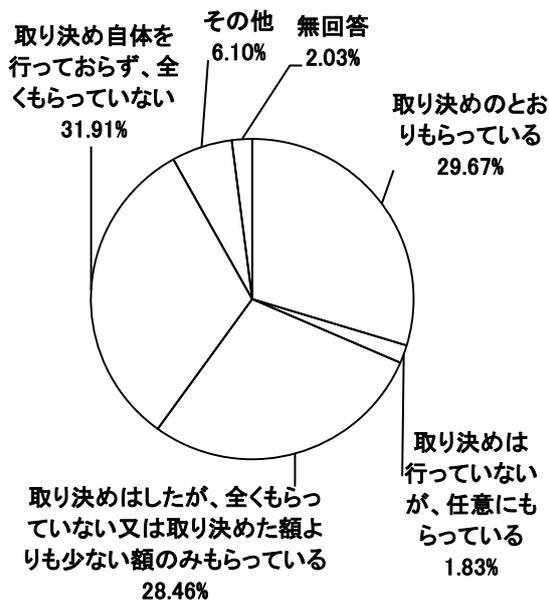


母子家庭、父子家庭ともに子どもの成績や学習環境の改善を望んでいる割合が高くなっています。

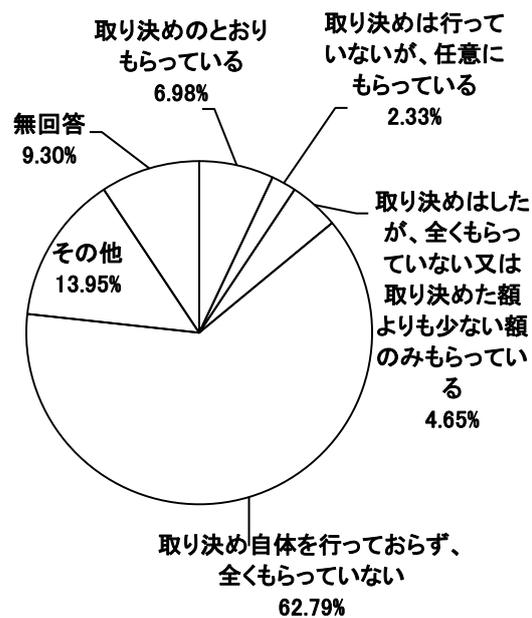
問 15 離婚により、ひとり親になった方にお聞きします。養育費の取得状況はどうですか。

(n=492) (n=43)

母子家庭における養育費の取得状況



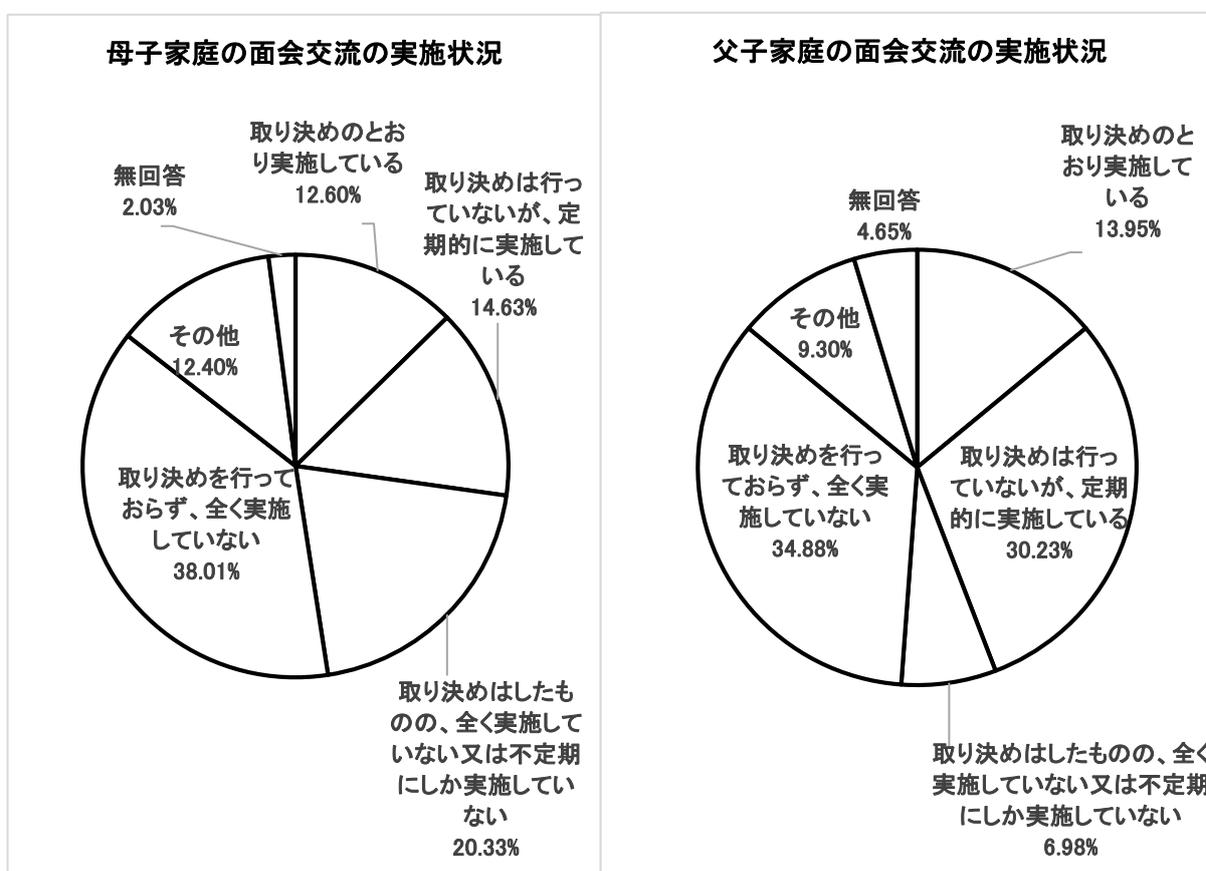
父子家庭における養育費の取得状況



母子家庭の母では、「取り決めた額より少ない額のみもらっている」と「取り決めた額より多い額のみもらっている」場合と、「取り決め自体を行っていない」を合わせると 60.37%であり、「取り決めのとおりもらっている」場合と「取り決めは行っていないが、任意にもらっている」場合を合わせた 31.5%の約 2 倍であり、養育費の取得状況は低い状況です。

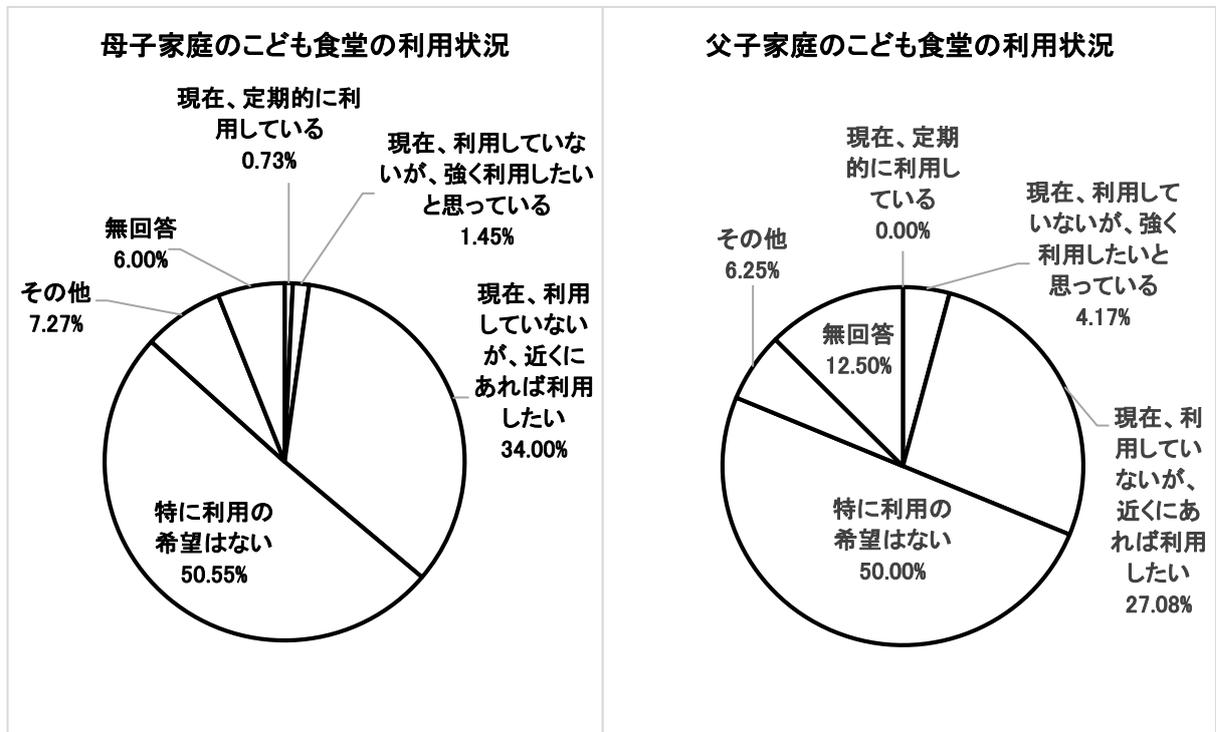
一方、父子家庭の父では、「取り決め自体を行っておらず、全くもらっていない」の割合が約 62.79%となっており、父親の方が母親よりも収入が多いことから、このような状況になっているものと思われる。

問 16 離婚により、ひとり親になった方にお聞きします。面会交流の実施状況はどうか。  
(n=492) (n=43)



母子家庭、父子家庭ともに「取り決めた額より少ない額のみもらっている」が最多となっています。また、「取り決めは行っていないが定期的実施している」割合は父子家庭が母子家庭の 2 倍となっています。

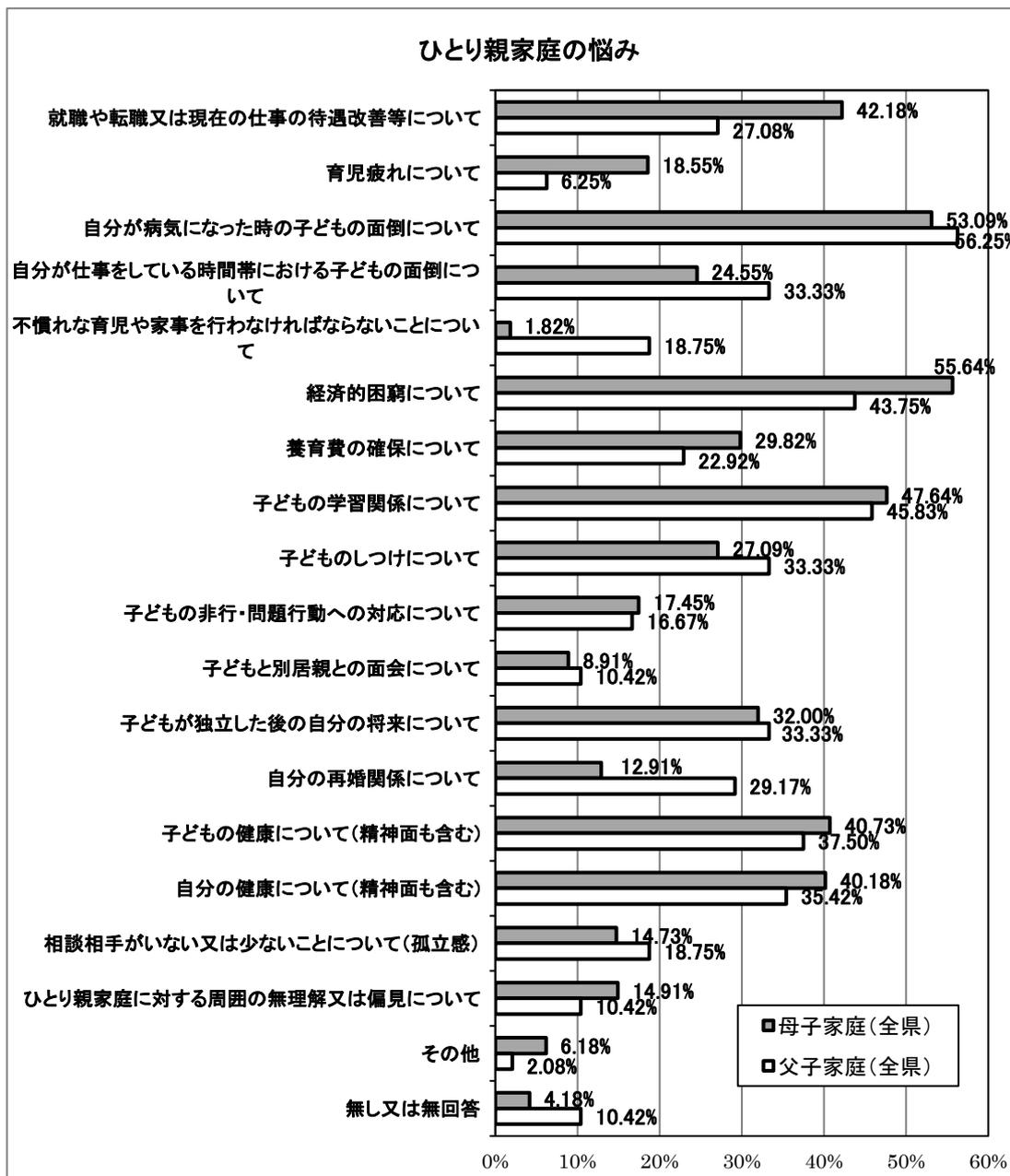
問 17 こども食堂の利用状況及び利用希望については、どうでしょうか。(n=550) (n=48)



母子家庭、父子家庭ともに「特に利用の希望はない」が半数となっています。また、近くにあれば利用したいという割合が約3割であり、こども食堂のある地域が限定されていることが推測されます。更に、その他の回答では「こども食堂を知らない」との記述が多数あり、認知度が低いものと考えられます。

問 18 仕事と子育てを両立させる等に当たっての悩みごと、不安に思っていることで当てはまるものを全てお答えください。(差し迫ったものでなく、漠然と感じていることでも構いません)

(n=550) (n=48)

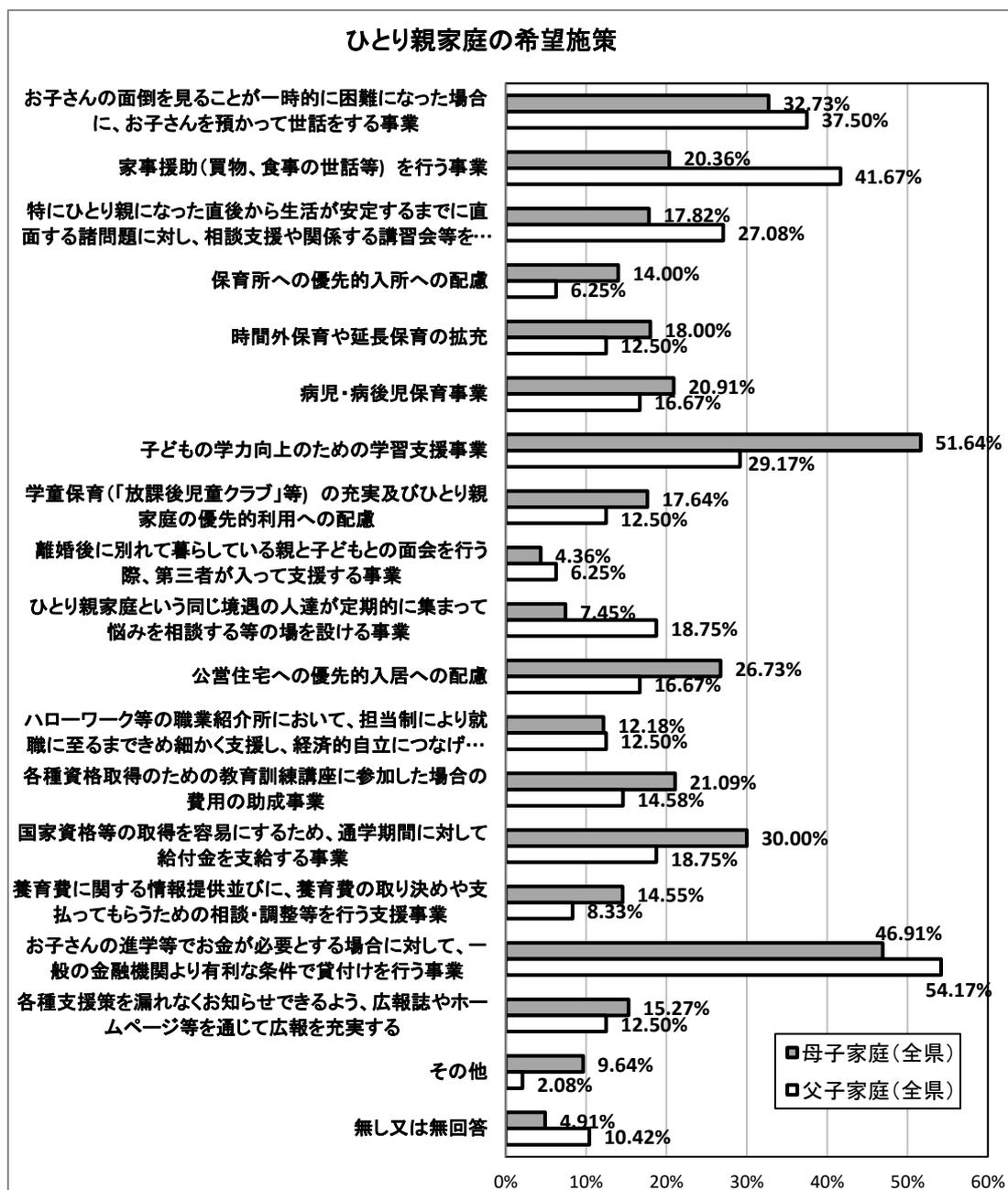


母子家庭では、「経済的困窮」の割合が 55.64% で一番高く、次に「自分が病気になった時の子どもの面倒」「子どもの学習関係」の順で続いています。

父子家庭では、「自分が病気になった時の子どもの面倒」の割合が 56.25% で一番高く、次に「子どもの学習関係」、「経済的困窮」の順で続いています。

母子家庭の母、父子家庭の父とも、子どもの面倒、経済面、健康面、子どもの学習関係やしつけ等について高い割合となっています。

問 19 あなたが現在、行政に希望する施策をお答えください。(複数回答可) (n=550) (n=48)



資金の貸付事業は、父子家庭が最も希望し、母子家庭が2番目に希望する施策となりました。また、母子家庭が希望する施策として最も高いのは子どもの学習支援事業となりました。

また、子どもの一時的な預かり援助や生活援助を希望する割合が、父子家庭を中心に高くなっています。